

# 京都教区時報

カトリック京都司教区  
広報委員会

京都市中京区  
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

## 2026年 司教年頭書簡を受けて



©Vatican Media

### 第6回 聖体における神の回復の力

司教年頭書簡の中の「教皇は、信仰生活の中で疲れや空虚を感じる時こそ、『聖体に立ち返れば、いつでもいやしと力が与えられる』と語り、聖体が希望の源であることを示されました」という文章が目にとまりました。ここから連想するイエス様の言葉を思い出します。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」(マタイ11・28・29)。わたしが教会の青年会で活動していたとき、当時は20歳代でしたが、教会学校、中高生会、教会行事に充てられて忙しい教会生活の中で、夏の青年会のキャンプのテーマが右記の御言葉でした。青年たちの集いで、この時ほど楽しく、信仰の分ち合いができたことはありません。その中心がミサ聖祭でした。

現在は修道生活に入り、ご聖体を中心とした教会典礼に基づいた生活をしていきますが、わたしたちの会の聖女アピラの聖テレジアは、ご聖体を中心とした修道共同体を創立しました。ちょうど、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」(ヨハネ15・5)とイエス様がいわれたよう

なコミュニケーションと違っていいでしょう。それは現在の教会で進められているシノダリティの中心に、羊飼いのイエス様を囲んで歩むコミュニケーションのようです。しかし、「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」という御言葉を実践するよう招かれています。十字架の道であると同時に復活への道です。

地上の生活の苦しみ・悲嘆・悲しみ・喜び・楽しみを経験されたイエス様は、わたしたちの地上の生活を共にしてください、わたしたちがキリストの諸徳を身に付けるに従って、キリストの友に変わっていくように招かれています。その先にあるのが復活者イエス・キリストの友となる希望です。共に歩む隣人は兄弟姉妹です。キリストの友となると同時に、父なる神の子になっていく希望です。ご聖体のイエス様と共に歩みましょう。

カルメル修道会 宇治修道院 松田浩一



SANTA TERESA DE JESUS

大塚喜直司教年頭書簡  
「教皇レオ十四世 希望と  
一致の橋をかける牧者」



7  
2026

## 園部聖堂 閉堂感謝ミサ

4月5日

復活の主日、大塚喜直司教の司式により、「丹波教会園部聖堂閉堂感謝のミサ」が行われました。取材をかねて初めて訪れた園部聖堂でのミサが、この聖堂の最後のミサとなりました。

園部教会は1950年に設立され、聖堂は1953年11月23日に献堂式が行われました。聖堂に貼ってあった白黒の写真に写る人々の多さには驚きました。献堂式には、教皇使節フルステンベルク大司教をはじめ、聖職者や信徒を合わせると700人もの人々が集ったそうです。小さな地方の町の教会ですが、地域の大きな期待が集まっていたのを感じました。



教会のすぐ横を流れる園部川は、何度も氾濫を繰り返したそうです。しかし度重なる氾濫にも屈せず、聖堂は地域のシ



ンボルとして愛され続けてきました。広々とした教会のお庭は丁寧に整備され、復活祭の当日は、紅白の椿が咲き乱れていました。これまで憩いの場であったことが伝わってくるようでした。

聖堂内に入り、すぐに目に入るのが、正面の祭壇のモザイク壁画です。1965年ごろ、清水焼の窯元から譲り受けた破片を、当時のエドワード神父の描かれた下絵に、信徒の

絵に、信徒の



方々が貼り合わせて制作されたものだそうです。

73年間、多くの司祭や信徒の方々を守り続けてこられ、日々のミサに加え、洗礼、初聖体、結婚、葬儀など、園部聖堂は喜びも悲しみも皆と共にありました。



大塚司教は、役目を終える聖堂に感謝を述べ、教会とは建物ではないということとを強調されました。そして、皆で復活の主に向かって走り出しましょうと呼びかけられました。

ミサ中、園部聖堂最後の洗礼式も行われ、喜びのひとときでした。

閉祭には「希望の巡礼者」を皆で歌い、希望を抱きながら、感謝のうちにミサを終えました。

広報委員



### ありがとう 園部教会

2026年4月5日、パウロ大塚喜直司教様の司式による復活の主日ミサをもちまして、1953年の献堂以来、歴代の司祭、信徒と共に73年という長い歳月の時を刻んでまいりました園部聖堂が、閉堂を迎えることとなりました。

これまで数多くの信徒とシスター方がこの聖堂に集い、司祭と共に神様への賛美と感謝の祈りや歌を捧げ、数多くの行事に参加し、共に時を過ごしてまいりました。園部聖堂は、とりも直さず聖堂のそこかしこに刻まれた信徒とその家族のあゆみの証であり、神様からのめぐみを得ていただいた各々の人生の交わりの証でもあります。

このたびの聖堂の閉堂を、従来の信徒共同体の交わりに、決して「終わり」を告げるものではなく、私たちに課せられた新たな決意をもっての「始まり」であると私たちを勇気づけ、励ましてくださる神様のみ旨として受け止めていきます。ここに私たち信徒一同は、建物の老朽化等のため、やむなく閉堂を迎えることとなりました園部聖堂と、この聖堂の献堂にご尽力いただき、その後も私たちに導いてくださった多くの先人たちへの感謝の念を、改めて心に刻みたいと思います。ありがとう、園部聖堂。

丹波教会役員

### 感謝ミサの共同祈願

前文「兄弟姉妹の皆さん、長年にわたり、信仰の歩みを支えてきた園部聖堂に感謝しつつ、共同体のこれまでとこれからのために、心を合わせて祈りましょう。」

「園部聖堂の歩みのために。主よ、この聖堂で祈り、奉仕し、信仰を証してきたすべての人を顧みてください。あなたがこの場所で始められ、守り育て、豊かに実らせてくださった恵みに心から感謝いたします。」

「この聖堂で秘跡を受けたすべての人々のために。洗礼、初聖体、ゆるしの秘跡、婚姻、病者の塗油、葬儀などを通して、この聖堂であなたと出会ったすべての兄弟姉妹をお守りください。また、すでに亡くなられた信徒には、あなたのみもとで永遠の安らぎをお与えください。」

「丹波教会の新たな歩みのために。私たちが集う場所が変わっても、主にあつて一つの家族であることを深く心に刻み、互いに励まし合ひながら、希望をもって歩み続けることができますように。」

「今後、この建物を使用する関係者のために。これからこの建物に集うすべての人をあなたの愛をもって包んでください。この場所が平和と安全のうちに用いられ、あなたのいつくしみを伝える場となりますように。」

後文「主よ、聖堂の建物が役割を終えるときにも、あなたは共同体を終わらせることなく、新たな道へと導いてくださいます。丹波教会のこれからの歩みを豊かに祝福し、いつもあなたの平和と希望のうちに支えてください。私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

**求道者に同伴する信徒  
信徒カテキスタ  
フォロアアップ研修**

4月25日(土)、新緑あふれる唐崎メリノールハウスで「求道者に同伴する信徒・信徒カテキスタフォロアアップ研修」を行いました。10小教区から求道者に同伴する信徒6名、信徒カテキスタ11名、計17名が集まり、ともに学びと交流の時を過ごしました。



午前は、一場神父による「トラウマを抱えている人との関わりについて」の講話を聞きました。世界的に広がり、教会でも取り組みが始まっている「トラウマインフォームドケア(TIC)」(「心的外傷を・よく理解して・関わる」)が紹介され、関わる相手がトラウマによる傷つきを抱えているかもしれないという視点を持つことの大切さを学びました。

一場師は、特に「TICが実現していけば、教会共同体はシノドス的な教会になっていく」と強調されました。また、「トラウマを抱えた人を温かく迎えるだけでなく、彼らから学んでほしい」「奉仕者自身も関わりの中で傷つくことを認識し、休むことや仕事を分担する勇気が

必要である」と語られ、すべての人とともに歩む教会の具体的な姿を示されました。さらに、関わりが難しい人がいる場合には「その人のために祈ること」も勧められました。

復活節第3週目のこの日は聖マルコ福音記者の祝日。ミサでは「全世界に行つてすべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16・15)と、求道者に同伴する信徒、信徒カテキスタにふさわしい御言葉が朗読され、参加者はそれぞれに思いを新たにされたことでしょう。

午後の全体会では活動状況の報告を行いました。「関わりに難しさを感じる時、一人で抱えず、自分の正直な思いを分かち合える人がいると助けになる」「熱意はあるけれど教会を訪れる人も求道者もおらず、役割を果たせていない。それでもできることをと、高齢者施設でのボランティアを始めた」などの体験や率直な



草津教会では「求道者に同伴する信徒」が担当する子どもたちの初聖体準備クラスで、パペットが活躍しています。今回の研修にも参加してくれました。「わたしもイエスさまの御言葉を伝え続けるよ!」

思い、また信徒カテキスタからは対応に困った事例などが共有されました。悩みや難しさを抱えながらも、誠実に向き合おうとしている参加者の姿が印象に残りました。

一年ぶりのフォロアアップ研修は、ともに歩む仲間がいる喜びを改めて感じる一日となりました。

なお、京都教区では2011年から2020年までの間に、求道者に同伴する信徒養成講座を計6回実施し、多くの修了者が小教区で活動をしてきました。現場の状況に鑑み、今後は新規養成は行わず、「求道者に同伴する信徒」の奉仕職は「信徒カテキスタ」へ一本化して、養成していく予定です。

福音宣教企画室



立ち止まって考える  
 ↳誰と共に歩む教会になりたいのか↳  
 正義と平和協議会学習会

講師 ビスカルド篤子さん

(大阪高松教区社会活動センター  
 シナピス副センター長)



4月18日、正義と平和協議会の学習会「立ち止まって考える」誰と共に歩む教会になりたいのか」を開催しました。講師のビスカルド篤子さんのお話を伺い、急速に進む社会変容と排外主義の拡大に教会がどう向き合い、戦争の未然防止と平和づくりをいかに実践するかを、多角的に検討する機会をいただきました。

ビスカルドさんが副センター長を務めておられる大阪高松大司教区社会活動センター「シナピス」の歴史・体制・年次方針と平和月間の拡充、対面の集いの効果、外国籍信徒の増加による共同体の変容、そして「中立はない」というメッセージを踏まえた行動化が提示されました。同時に、教会・社会活動センターへ駆け込む在留資格不保持者など、制度からこぼれ落ちる人々の実態、日本社会におけ

る「日本人」概念の定義不能性と排外主義の社会心理、COVID-19以降の陰謀論、排外主義、ヘイトの拡大、選挙過程でのデマと法政策の後退、入管強化が現場支援に及ぼす影響が具体事例を通じて話されました。

また、関西での難民・移住者支援（法律相談アウトリーチ、通訳ボランティア連携、仮放免者の生活支援、当事者参画のニュースレター運営、能登被災地への難民チームのボランティアを継続派遣、シエルター・カフェ運営、インターナショナルデー）を紹介され、教会ネットワークの強みと「希望の巡礼者」としての実践を共有。日本の「助け合い」低調という国際比較データを踏まえ、教会が信頼と連帯を社会に広げる「トップバッター」となる可能性、半径6メートルの平和から始める具体行動、閉じた世界から外へ出る福音の重要性が強調されました。

学習会は講演・質疑の構成で進み、講師からは「ヘイトにNO！ 全国キャンペーン」の協力や「嘘やデマにファクトチェック」を呼びかけられました。

【参加者の感想】

☆質疑の際におっしゃっていたNPOではなく、教区の活動として何ができるかを考えるというお話が印象的でした。日々の生活の中で自分自身の心の

中のハードルを下げることで半径6メートルの人々にもう少し気持ちに向けていけたらと思います。

☆弱く小さなところにイエス・キリストはおられます。私は主イエスの救いを信じています。苦難と試練を乗り越えて希望があると思いません。講師がおっしゃった「いやだなあー」と思うことができるのは、「キリストの愛」だと思いました。

☆偏見、いやがらせ、差別の兆候を感じたりしたときに、それに無反応、声をあげられないことも容認につながるのではないかと思います。

☆政府こそ、差別・排外主義は許さないとメッセージを発しなければ苦しい。逆の管理と統制という政策、国がヘイト政策をとっている現状です。難民もまた、地域で一緒に暮らす隣人として、人権が守られる社会をと思えます。「今こそ、戦争を未然に防ごう」というスローガンに共感します。



## 青年のための 黙想会 “神の国”とは？

1泊

4月25日～26日

望洋庵において北村善朗師の指導による『青年のための黙想会』を行いました。3名の青年が参加し、日常から離れ、静かにイエスと向き合いました。

「神の国」とはどういう国か…。「神（支配するもの）」がいて「人（支配されるもの）」がいる国？「神の国」＝「極楽浄土」？「入れる人と、入れない人」がいる？ などなど…。イエスが伝えたかったのは、「神のお望みが皆に広がっている状態」つまり、上でも下でもない、外でも内でもない全く「水平」という概念だということをいくつかの例から考えました。「互いに愛し合う」＝「お互い様、相互愛」とは、本来の人間のあり方だということを、聖書を読んで黙想しました。（ヨハネ15・12～17）



教会の典礼暦では復活節（26日は復活節第4主日）、世間一般では、新年度、新学期の始まりからひと月という、なんとなく忙しい時期で参加者は少なかったのですが、「分かち合い」や「ふりかえり」にたっぷり時間がとれ、充実した、あつという間の2日間でした。 信仰教育委員会

聖書委員会より新刊発行 シリーズNo.16

### 人はなぜ痛み、苦しむのか ～聖書からの問い～

「人はなぜ痛み、苦しむのか」。それは人類がその誕生以来、常に抱え続けてきた普遍的な問いである。

本書は、コロナ禍の2022年、京都司教区聖書委員会主催のオンライン聖書講座で、聖書の中にその答えを見いだそうと試みた、5人の講師による講義の記録である。

コロナ禍が去ったと思われる今この時、現代人に強く求められることは、「祈り」、「心の平和」、「観想」、「新しい価値観」について、聖書のことばに謙虚に耳を傾け、より積極的な生き方を模索することなのではないだろうか。

#### 目次

- すすめのことば：大塚喜直（京都司教区司教）
- 罪を犯した人祖：北村善朗（京都司教区司祭）
- 民の痛みを見た神：中川博道（カルメル修道会司祭）
- 彼は試みに遭い：西 経一（神言修道会司祭）
- 病む人に寄り添うイエス：柳田敏洋（イエズス会司祭）
- イエスはすべての弱さを背負い：阿部仲麻呂（サレジオ会司祭）
- 定価：1,540円（本体1,400円+税） 発行：サンパウロ



割引価格にてお分けいたします。ご希望の方は、京都司教区聖書委員会までメール・お電話・FAXにてご連絡ください。実費にて郵送も承ります。

お申込み・お問い合わせ カトリック京都司教区 聖書委員会

TEL / 075-223-3339（月～木10:00～16:00 金10:00～12:00）

FAX / 075-211-3041 e-mail / seisho@kyoto.catholic.jp

## こんにちは イ神父さん



タラン スン ニュ イ 神父  
(クラレチアン宣教会)

山城ブロック 担当司祭

国際協力委員会

ベトナムコミュニティー 担当司祭

洗礼名：パウロ

出身教会：VINH HUONG教会  
(ベトナム)

生年：1986年

叙階：2024年

趣味：読書、スポーツ(バドミントン、  
サッカー)



京都教区の信徒の皆さま、はじめまして。このたび京都教区に任命されましたタラン スン ニュ イです。

私は京都に来たばかりで、まだ土地のことや教区の歩みについて学んでいる最中ですが、長い歴史と豊かな信仰の伝統を持つ京都教区で、皆さまと共に歩むことができることを大きな喜びと感じています。また、新しい出会いの一つひとつを、神さまから与えられた大切な恵みとして感謝しております。

初めての環境の中で、期待と同時に不安もありますが、各小教区や共同体で温かく迎えてくださる皆さまの優しさに支えられ、少しずつ新しい歩みを始めています。これから皆さまと共に祈り、語り合い、喜びや困難を分かち合いながら、信仰共同体の交わりを深めていきたいと願っています。

私自身、未熟ではありますが、主に信頼しながら、皆さまと共に歩み、共に学び、共に成長していきたいと思っております。そして、日々の生活の中で主の愛を証しする教会として、皆さまと力を合わせていければと願っております。

京都教区のすべての信徒の皆さまの上に、主の豊かな祝福と平和がいつもありますように。これからどうぞよろしくお願いいたします。

## ☆「一日企画」のお知らせ☆

来る7月11日(土)、京都カトリック青年センターと望洋庵の合同企画「一日企画」を行います！ 一日だけで行う企画なので、普段忙しくて泊まりでの参加が難しかったという人にも、気軽に参加していただけます♪

一日企画の内容は「映画をみよう！」です。映画を一本観て、参加者の皆さんで感想を分かち合いたいと思います。以前同様の企画を行った際には、「ペイ・フォワード」を鑑賞しました。今回はどんな映画が選ばれるのか…皆さん、青年センターの公式ラインやInstagramなどでの詳細公開を待っててくださいね！



普段学校生活や仕事が忙しくて、最近映画を観ていないなあという方や、青年同士でわいわい話す機会を持ちたいなあという方、とりあえず行ってみようかなあという方、どなたでもお気軽にご参加ください！ お待ちしています♪

河原町教会 橋本仁子

## お知らせ

## 司 教

## 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 教 区

## 京都教区中学生会夏合宿

日 時：8月19日㊥～20日㊦

対 象：中学1～3年生

費 用：3,000円

場 所：唐崎メリノールハウス

定 員：20名

申込締切：7月18日㊧

詳細は右の二次元コードからご覧ください



■教区時報9月号の原稿締切日は7月19日㊨

## 予 告

## 2027年 ワールドユースデー (WYD) ソウル大会

本大会：2027年8月3日㊩～8日㊪

テーマ：「勇気を出しなさい。わたしはずでに世に勝っている (ヨハネ 16・33)」

青年のための集いであるWYDが来年の夏、韓国ソウルで行われます。

詳細は順次発表されますので、中央協議会のサイトでご確認ください。



## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

7月12日㊫ 14:00 聖歌練習

7月25日㊬ 17:30 練習後ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

## コーロ・チェルステ (女声コーラス)

練 習：7月9日㊭ 10:00

7月23日㊮ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊 新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

## 聴覚障がい者の会・京都グループ

## 手話表現学習会 (聖書と典礼)

日 時：7月21日㊯ 13:00～15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：鎌田 修 090-1967-5636

kamadaosamu@gmail.com

## 心のともしび

ラジオ番組案内 (全国34局で放送)

7月主テーマ「根っこ」

KBS京都 ㊰～㊱ 朝5:55

㊲ 朝5:15

ラジオ関西 ㊰～㊱ 朝5:00

㊲ 朝6:05

毎日放送 ㊰～㊱ 朝5:45

㊲ 朝4:55



## カトリック京都働く人の家

## 読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：7月12日㊫ 九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271